

保健活動リレーエッセイ

“まちの健康支えます！”

球磨村 保健師 松村玲子
(熊本縣市町村保健師協議会会長)

住民に一番近い健康の担い手として

初めに、私の尊敬する、1942年イングランド生まれの現役ミュージシャンで、1960年代のロックバンド「ザ・ビートルズ」のメンバー、ポール・マッカートニーの話を。(若い方も彼らの曲「イエスタディ」はご存知と思います。)彼は今年6月で73歳、前期高齢者ですが、コンサートではいろいろな楽器を自在に操り、3時間休むことなく笑顔とユーモアのパフォーマンスを行います。体も頭もしなやかな彼は、きっと若々しい血管を持ち、医師や保健師・栄養士のような専門職の支援を受けながら、生活習慣病予防に努めているはずです。願わくば、彼の血液検査データを見てみたいものです。



さて、熊本縣市町村保健師協議会は、熊本市を除く市町村及び国保連合会の保健師で構成されています。184人で発足し、32年を経た現在は会員数約390人で、200人以上も増えました。このことは、住民の市町村保健師に対する期待の表れであり、住民に一番近い健康の担い手としての責務の重要性を示していると思います。また、国からは100以上の施策が市町村保健師に課せられ、高い専門性が求められています。本協議会では、研修会開催や学会発表などを通して会員の資質向上を図るとともに、ホームページを開設して情報の共有・発信を行っています。昨年度は、研修会に講師として国立循環器病研究センターの猪原匡史先生をお招きし、認知症と生活習慣病の関係についてお話しいただいたところ、200人近い参加があり、「生活習慣病の重症化予防の取り組みが認知症予防につながる根拠を学び、保健師として奮い立たされるような研修だった」と好評でした。

これからも、保健師として母子・成人を支援し、最終的には住民が若い血管を持てるように支援していきたいと思っています。住民がポールのようなアクティブな高齢者になれるように。



研修会で猪原先生を囲んで
(前列左から5人目が筆者)

このシリーズでは、市町村保健師や保健事業担当者の奮闘ぶりをリレー形式でお伝えしていきますので、どうぞご愛読ください。